

## 2017年1月の大気大循環と世界の天候

### 大気大循環

500 hPa 高度をみると、アラスカの南海上、カナダ東部及びヨーロッパ北部で正偏差となった。地中海周辺からアジア大陸南部、太平洋にかけて波列パターンが卓越し、中国南東部で正偏差、日本の東海上で負偏差となった。この偏差のパターンと対応して、偏西風は平年の位置と比べて中国東部～日本付近では北寄りを、日本の東海上では南寄りを流れた。850 hPa 気温は、中央シベリア～東アジアで高温偏差となった。帯状平均した東西風をみると、北半球の亜熱帯ジェット気流は平年と比べて強かった。帯状平均した対流圏全球・中高緯度の気温は引き続き正偏差となった。

熱帯の対流活動は、平年と比べて、東南アジア付近で活発、インド洋西・中部、太平洋赤道域の中部から東部で不活発だった。赤道季節内振動に伴う対流活発な位相は、月の後半に大西洋からインドネシア付近にかけて東進した。対流圏下層をみると、インド洋東部～インドネシア付近にかけて、赤道を挟んで対の低気圧性循環偏差がみられた。対流圏上層をみると、亜熱帯ジェット気流に沿って波列パターンが卓越し、中国南東部では高気圧性循環偏差が明瞭だった。この高気

圧性循環偏差は、東南アジア付近の活発な対流活動にも対応している。南方振動指数は+0.2だった。

### 世界の天候

2017年1月の世界の月平均気温偏差は+0.39°C（速報値）で、1891年の統計開始以来、2番目に高い値となった。1月の世界の平均気温は、上昇傾向が続いており、長期的な上昇率は約0.76°C/100年（速報値）である。

主な異常天候発生地域は次のとおり。

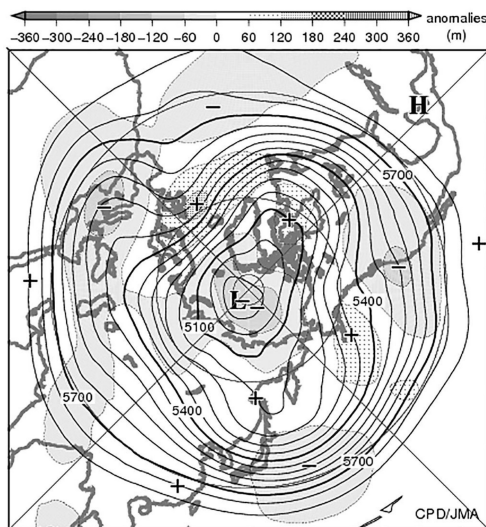
- 先島諸島～中国南部で異常高温となった。
- インドシナ半島南部～スマトラ島北部で異常多雨となった。
- ヨーロッパ南東部で異常低温となった。

（気象庁 地球環境・海洋部 気候情報課）

※ より詳細な情報については、気象庁ホームページ

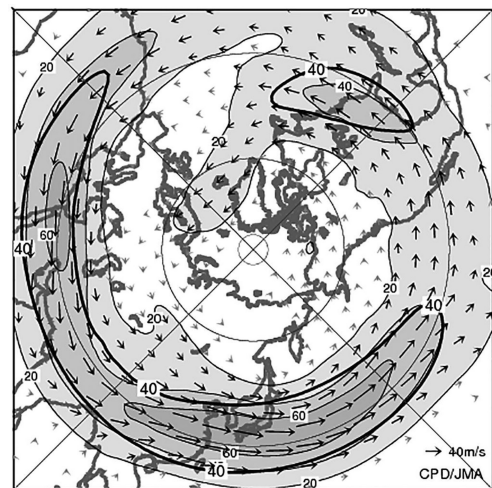
「気候系監視速報」をご覧ください。

<http://www.data.jma.go.jp/gmd/cpd/diag/sokuho/index.html>



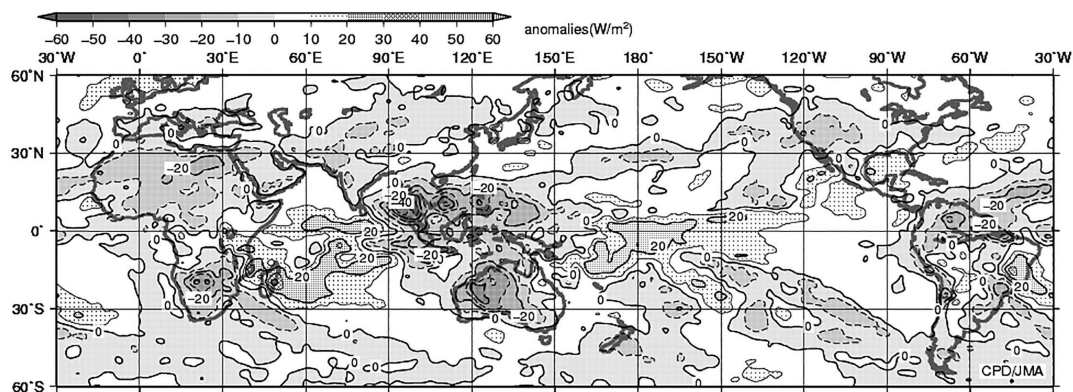
2017年1月の北半球月平均500 hPa 高度及び平年偏差

等値線間隔は60 m。陰影は平年偏差。平年値は1981～2010年の平均値。

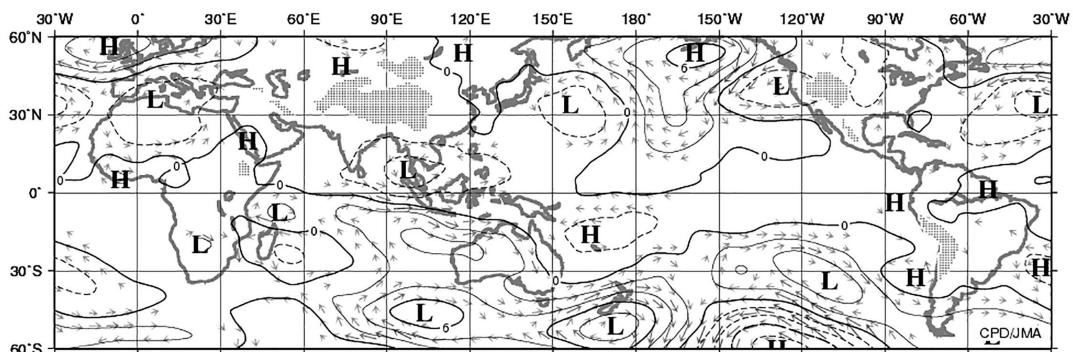


2017年1月の北半球月平均200 hPa 風速及び風ベクトル

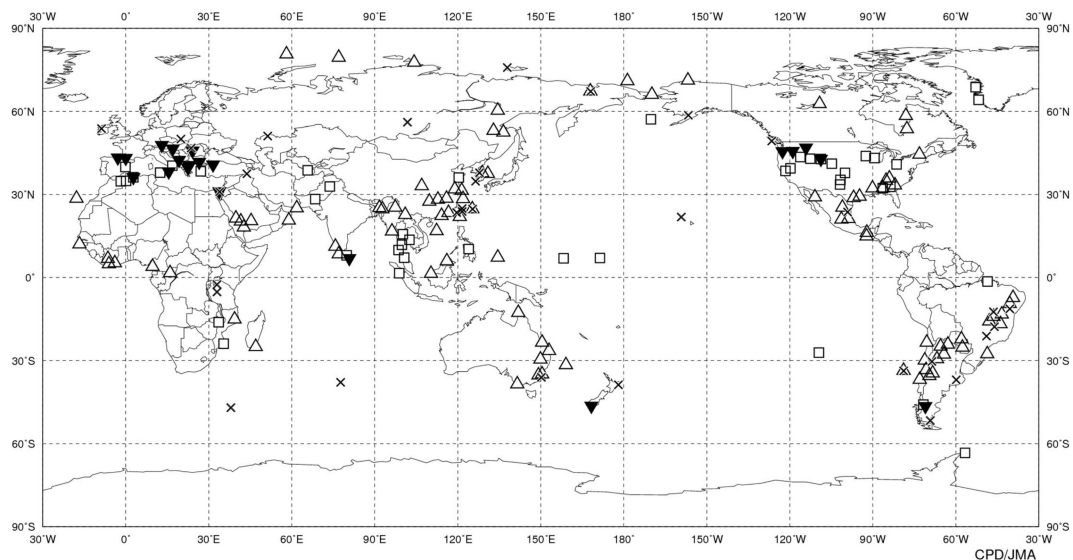
等値線間隔は20 m/s。太実線は平年の風速で等値線間隔は40 m/s。平年値は1981～2010年の平均値。



2017年1月の月平均外向き長波放射量年偏差  
 等値線間隔は10 W/m<sup>2</sup>で、値が小さいほど対流活動が活発であったと推測される。米国海洋  
 大気庁 (NOAA) より提供されたデータを用いて作成。平年値は1981~2010年の平均値。



2017年1月の月平均850 hPa 流線関数年偏差及び風年偏差ベクトル  
 流線関数の偏差の等値線間隔は  $2 \times 10^6 \text{ m}^2/\text{s}$ 。平年値は1981~2010年の平均値。



2017年1月の世界の異常天候分布図 △異常高温 ▼異常低温 □異常多雨 ×異常少雨  
 異常高温・低温は標準偏差の1.83倍を超える場合、異常多雨・少雨は降水5分位値が6及び0。